

## 小ギクにおける後夜半電照は開花調節に効果的

農業総合センター園芸研究所

近年の小ギク生産では、春先の温暖な気象の影響を受けて、花芽分化が進み需要期前に開花することが問題となっています。

そこで、開花調節技術である電照栽培の高精度化を目的に、電照時間帯と開花との関係を調査した結果、後夜半電照（0時～4時）は慣行の方法（22時～2時）に比べて花芽分化を抑制する効果が高いことを明らかにしました。また、後夜半電照は既存の設備をそのまま利用できるため、技術の導入も容易です。



ここが  
ポイント

### これまで以上に開花調節効果が高い電照技術です

後夜半電照（0時～4時）は、前夜半（20時～0時）や慣行の電照時間帯（22時～2時）と比べて花芽分化の抑制効果が高く、開花は慣行よりやや遅れ8月旧盆向けの出荷に適します（表1）。

切り花長や切り花重は慣行と同程度です。後夜半電照の効果は、白熱電球と蛍光灯で確認しています。

表1 電照時間帯が小ギクの開花と切り花形質に及ぼす影響

品種名	電照時間帯 <sup>1)</sup>	発蕾日 (月/日)	開花日 (月/日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)
玉姫	前夜半	6/24	7/23	86	89
	慣行	6/30	7/28	97	92
	後夜半	6/30	7/29	100	96
はじめ	前夜半	7/ 2	8/ 3	95	75
	慣行	7/ 7	8/ 5	99	75
	後夜半	7/ 8	8/ 7	101	78
はるか	前夜半	7/ 2	8/ 2	100	92
	慣行	7/10	8/ 5	96	81
	後夜半	7/11	8/ 6	101	83

注) 定植日は平成28年4月26日、電照には白熱電球を用い、定植から6月16日まで行った。

<sup>1)</sup> 前夜半は20時～24時、慣行は22時～2時、後夜半は0時～4時の時間帯に電照を行った。

### 高い収益性と簡単な操作

後夜半電照が収益に及ぼす効果は、品種により異なりますが、最も効果のあった「精こまき」では10aあたり16.5万円の増益が見込まれました（表2）。

また、技術の導入に際しては、電照時間帯をタイマーで変更するだけなので、操作はとても簡単で導入コストの増加もありません。

表2 後夜半電照が小ギクの収益に及ぼす効果  
(10aあたりの試算、平成28年)

品種名	電照時間帯	開花日 (月/日)	販売金額 (万円)	慣行との 差額(万円)
玉姫	慣行	7/28	104.7	—
	後夜半	7/29	104.7	0
はじめ	慣行	8/ 5	128.7	—
	後夜半	8/ 7	135.3	6.6
はるか	慣行	8/ 5	128.7	—
	後夜半	8/ 6	134.1	5.4
精こまき <sup>1)</sup>	慣行	8/ 2	119.7	—
	後夜半	8/ 8	136.2	16.5

注) 日別の採花本数×日別の単価から試算した。

<sup>1)</sup> 「精こまき」は平成28年の現地試験で調査した。

### 活用上の留意点

後夜半電照は、これまでの電照方法に比べて、花芽分化を効果的に抑制する技術です。これまでの到花日数をもとに消灯すると、開花が遅れすぎる場合もあるので、花芽検鏡などを参考に、消灯日を決定して下さい。